

第4章 推進体制と取り組み目標

1 推進体制

食育の推進には、幅広い分野にわたる取り組みが求められます。

食育を計画的、継続的に推進し施策の実効性を高めて行くためには、多種多様な機関、団体等の参加・協力が必要です。このため、専門的知識やノウハウを蓄積している大学等の研究機関や医療機関等の関係機関及び栄養改善協議会等の食育に関する地域活動を行っている団体等と連携し、情報の交換と共有を図るとともに、食を学ぶ機会の提供及び有益情報が発信できる体制の充実を図ります。

また、市のホームページや広報紙「市民のひろばおかやま」等の活用により、食に関する情報の提供を図ります。

連携・協力を図る機関、団体等

国・県・市等行政機関	消費者団体
保育所（園）・学校関係	保健福祉関係
報道関係	食品産業関係
大学・研究機関	生産者団体
医療機関	商業流通関係
地域ボランティア組織	
（岡山市栄養改善協議会・岡山市愛育委員協議会）	

2 取り組み目標

計画の目標	数値目標	現状値% (H29)	目標値% (H34(2022))
(1) 家庭や地域との関わりから食の楽しさを実感しよう	家族や友人、同僚と共に食事をする人を増やす	50.2	増加させる
	公立保育園で給食試食会を開催する保育園を増やす	69.8(H28)	増加させる
(2) 栄養バランスに配慮した健全な食生活を実践しよう	朝食を毎日食べる児童を増やす(小学生)	84.7	100
	朝食を毎日食べる生徒を増やす(中学生)	77.3	100
	朝食を食べる若い世代を増やす	68.9	73
	腹八分に気をつけている人を増やす	55.8	70
	野菜を多くとるようにしている人を増やす	78.1	100
	肥満(BMI 25.0以上)の人を増やさない(40~60歳代男性)	34(H28)	33
	肥満(BMI 25.0以上)の人を減らす(40~60歳代女性)	18.4(H28)	14
	栄養バランスを考えて食事をとっている人を増やす	54.9	60
	栄養バランスを考えて食事をとっている若い世代を増やす	45.8	50
	ゆっくりよく噛んで食べる人を増やす	42.6	50
(4) 地産地消を実践しよう	学校給食に県内地場産物を使用する割合を増やす	49.4	40以上
	野菜・果物などを購入するとき岡山産を意識する人を増やす	60.5	65(H31)
(6) 食の安全・安心に関する知識と理解を深めよう	エネルギー、栄養成分を表示している飲食店を増やす	19	増加させる
	食品や外食の栄養成分表示を見る人を増やす	52.4	57
	食品や外食の栄養成分表示をみる若い世代を増やす	57.2	62

※「若い世代」とは、20歳代、30歳代をさす。